

# 日吉台地下壕保存の会

# 会報

## 第34号

発行 日吉台地下壕保存の会  
編集 事務局

223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

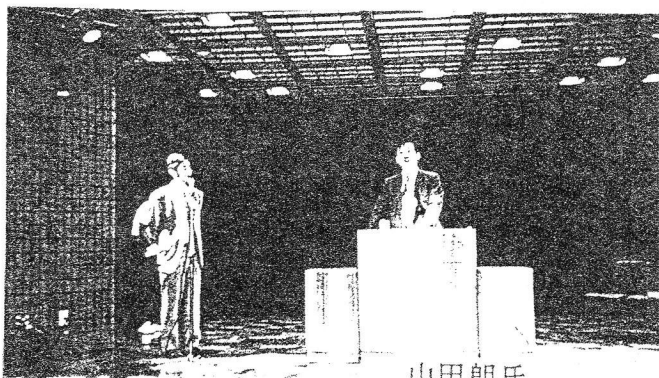
(年会費) 一口千円で、一口以上

郵便振込口座番号00250-2-74921

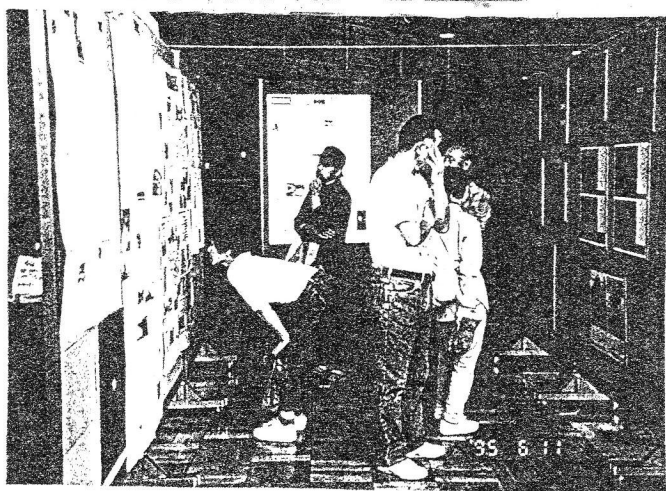
(加入者名)日吉台地下壕保存の会



小島清文氏



山田朗氏



第3回「横浜・川崎  
平和のための戦争展」風景

### 目次

### ページ

第3回「横浜・川崎平和の  
ための戦争展」について  
～御報告とお礼～

2

「平和のための戦争展」  
アンケート(感想)集

3～5

運営委員会報告

5

会費納入のお願い

5

連載日吉台地下壕

当時の関係者の思い出話 1 1 6～7

幹事会報告

8

お知らせ「95平和のための

戦争展かながわ」

8

1995年7月20日

御賛同者各位  
御賛同団体各位横浜・川崎平和のための戦争展'95  
実行委員会第3回「横浜・川崎平和のための戦争展'95」  
について

## ～御報告とお礼～

暑い日が続いておりますが、皆様におかれましてはご健勝のこととおよろこび申し上げます。

去る6月6日～6月11日の第3回平和のための戦争展は、初日より連日大勢の方の御来場をいただき、成功裡に終えることができました。

これもひとえに御賛同くださいました皆様方のお力添えの賜物と、こころより厚く御礼申し上げます。

日吉台地下壕、登戸研究所ともに過去の戦争の事実を伝えるための大切な遺跡として、「ぜひ保存を」との願いを新たにいたしております。

これからもご支援のほどを、どうか宜しくお願い申し上げます。ありがとうございました。

下記の通り会計報告いたします。

## 収入の部

前回繰越金	73,975円
賛同金	192,320
イベント参加費	23,500
資料代	26,300
カンパ	14,486
本・葉書手数料	14,160
合 計	344,741

## 支出の部

場所代	55,590円
運営費	49,864
事務通信費	32,650
印刷費	24,391
材料費	11,384
謝礼	80,000
交通費	40,000
合 計	293,879

次回繰越金 50,862円

第3回「横浜・川崎平和のための戦争展 95」を終って  
実行委員会より御報告とお礼の文書をいただきましたので、掲載いたします。

# 「平和のための戦争展」

## アンケート

### （感想相心） 集

★戦争という残酷さが今にも過去を近づけるような思いがしました。一つの爆弾で何万ものかけがえのない命が奪われるのは何のためでしょうか。名誉、地位のためだけで人の命を風船のように割つてもいいのでしょうか。私達は何も不自由のない時代に生れ、尚生活を続けています。昔は食糧不足に困っていたことでしょうか。

ポツダム宣言の戦争は二度と起こさないという規則を守り、心豊かに「人類みな兄弟」という言葉のようにできたらいいなと思っています。

この展覧会の一つの心の変化の道につながっていると思います。（一〇代女）

★昔、広島へ原爆について学ぶために行った事がありますが、その時と同じでどれもいい感想はありません。

映画を見させていただいたのですが、今の自分がどれだけ幸せなのか分かりました。毎日の生活にいつも不満ばかり言っている自分が恥かしくなりました。これからは自分の幸せばかりでなく世界の幸せになるような事を、みんな本当に考えなければいけないと思いました。（一〇代女）

★とても役立ちました。戦争の事についてもっと知りたいと思います。（一〇代女）

★最初、来るのはいやだったけど、母と一緒にきてよかったですと思います。いろいろなことが分かりました。（一〇代女）

★たのしかった。これからは戦争をしてはいけないと思います。生々しくて、とっても

気持ち悪かったけど勉強になりました。これからも話をしてください。（一〇代女）

★一五年戦争について、現在では「知ろう」としないと、知らないで済む時代である。知らぬままに、香港やシンガポールに「買物ツアー」などに行き、大騒ぎをしたりする。「知らない」ことは悪意ではないにしても、とても恥かしいことです。

また、大体のことは知っていても、まだまだ知らない、知らされていけないこともある。この戦争に対する評価は二面的でないし、その人によって異なる部分もあると思うが、事実を正しく知り、歴史を直視した上で、誤ったことは、誤ったと言える力を日本人ひとりひとりがつけなければならぬだろう。

戦争を展示するのは大変難し

いことだと思えますが、事実を正しく伝えること、それが大切だと考えています。ノスタルジーに終らせることなく。（二〇代女）

★小島さんのお話は、戦争とはどんなにむごいものかよく示されていたと思います。来年も開催してください。五〇周年で終ってほしくない展示と思います。（三〇代女）

★身近な地域から、いろいろなことが学べる大切さを痛感させられました。自分の住んでいる地のことを正確に理解し、伝えていきたいです。（三〇代女）

★松代と市ヶ谷の地下壕を見学しましたが、日吉にも立派なものがあつたことは今日初めて知りました。もっと大勢の人が知るべきですね。

登戸研究所のパネルは名称を「オウム」に変えれば、その

ままた現代の写真になってしま  
いますね。恐ろしいです。

(四〇代女)

★登戸研究所と日吉台地下壕  
の保存はどのように進めてい  
くか、難しい問題が多いと思  
う。まず、具体的に金銭的問  
題があり、スポンサーとして  
政治力は頼れない。保存が歴  
史的（政治上の）にメリット  
があるか、という問題もある。  
市民運動をメディアに取り上  
げさせていくのが、当面の問  
題かも知れない。(四〇代男)

★一ヶ月程の間に、何人もの  
方々の戦争体験、戦争責任の  
話を聞きましたが、小島さん  
の話には最も深い感銘を受け  
ました。最初から聞くことが  
できませんでしたが、極限ま  
で追いつめられた兵隊の状況  
などほんとにひどいものだ  
と実感しました。

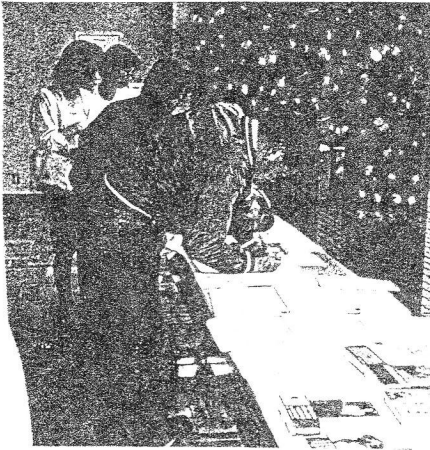
それにしても、いつも、すこ

い企画をたてられ、驚きです。

(五〇代男)

★東京のことは常々聞いてい  
ましたが、神奈川の様子（特  
に日吉台）は初めて知った。  
学生が犠牲になったことにつ  
いては大変気の毒だと思  
う。今、世間を騒がしているオウ  
ム真理教もこの戦争と同じよ  
うなことをしているのではな  
いかと思うと恐ろしい。

(五〇代男)



★シンポジウムに参加して展  
示より大切なイベントだと思  
う。

日本人として知るべきこと、  
知らねばならないことをしっ  
かり知り、伝えなければなら  
ない。これからの日本を支え  
る者が真実を身につけ、世界  
の中で生きる力量を発揮して  
欲しい。(六〇代男)

★広いスペースでこれだけの  
展示ではもったいないが、内  
容はしっかりしていた。文字  
が小さく読みづらい。もう少  
し中学生位にもわかるような  
やさしい解説を要所におき、  
わかりやすく展示して欲しい。

(六〇代男)

★網島に生れ日吉に住んで三  
六年、日吉の慶大の地下壕の  
ことは薄々知っていたが、今  
回の戦争展を見て、良くわか  
り、大変な感銘を受けた。  
少国民として戦争末期を、戦

後は、中学生、高校生として、  
進駐軍とパンパンにあふれた  
街を、空腹をまぎらすために  
さまよい歩いた日々を想うと  
涙さえでてくる。

今、平和とはいえ、多くの犠  
牲者の上に物質的に繁栄した  
日本が、最近、オウムとい  
う狂人たちの毒物乱用におび  
える様相は、戦争末期の登戸研  
究所と相通するものがあり、  
平和というものの「もろさ」  
を危惧する気持になる。

このような展示と活動が、も  
っと強く世の中にアッピール  
されることが今こそ必要だと  
痛感する。

川崎市と本展の関係者、そし  
て地下壕保存の会の方々に心  
から敬意と感謝の意を捧げた  
と思います。(六〇代男)

★昭和一九年七月から学徒勤  
労動員（旧制中学三年）で、  
多摩川大橋を渡った所（大田

区矢口)にあった海軍管理工場で働きました。

二〇年、米軍が焼夷弾を投下、多摩川大橋(当時は木造)は焼失して、ガス橋(当時は幅一・五m前後の吊り橋)を利用しなければ対岸に渡れず、橋の重要性を知りました。

「ウオーキング・マップ平和川崎」と「日吉台地下壕」を読み五〇年前を思い出しました。

(六〇代男)

★私は戦争体験者ですから、かつてのことを思い出しながら見ましたが、あの頃、真相を知らず、国のあり方を批判することもなく流されたことを、今思い出して同じ過ちを繰り返すまい、目をよく開いて真実を見抜きおかしいことはおかしいといわなければと思っています。

日本にとって利益にならない、世界の平和にも寄与しない米

軍基地に、日本が金と土地を提供していることの不都合をもっと人々に考えて欲しいと思っています。

いろいろ改めて考えさせられましたこと、ありがとうございました。

(六〇代女)

★戦後五〇年のこの期に、しっかりと戦争の無意義を歴史として残していかなければ成らないと思う。

アジアの人々への陳謝と反省「侵略」であったことを認めるべきです。

学童疎開体験を若者に伝えていきたい。八月に「伝える会」で話します。

写真で訴える方法は効果的です。日吉の壕の長さに驚いています。

法政二高の学生は良く取り組みましたね。他の学校も授業の一環として、戦争展、平和展を見学するとよいと思います。

す。(六〇代女)

★一日(日)午後より参加させていただきました。主人も二度(日支事変、大東亜戦争)も応召し、大陸へ渡らせられた人間ですが、終戦の時は、現地の農家のお婆さんに助けられて(干飯を沢山作ってくれました由)上海まで四〇日歩いてきて、無事日本へ帰国できました。私共のこれは小さいけれど自慢の一つとして若い人達に常に話して聞かせております。

大変結構な催しに参加させていただき有難う存じました。明年また私共も生存しておりますたらお目にかからせて下さいませ。先生方のご盛栄をお祈り申し上げます。

(七〇代女)



河津岩古未女員△△△報生口  
六月二十六日六時半  
藤山記念館  
議事

▼地下壕保存の陳情について  
\* 神奈川県及び横浜市に陳情するために署名を集めることについては、兼ねてより検討し、陳情書の文案も練られてきている。本年は終戦五〇年の節目の年であること、本年三月遺跡などの保存についての法律が一部改正になったことなどから、よい機会と考えられるので、運営委員会が最終的に検討すると言うことであつたが、欠席者が多く、会長、副会長に文案の検討と時期について一任することになった。

\* \* \*

本年度の会費をお送りくださるようお願いいたします。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の  
思い出話 11

日吉の日々 3

軍令部にいた増井氏のお話を伺います。

増井潔氏の話

(ききて・寺田貞治)

昭和一八年五月に軍令部に転勤になり、最初海軍省の二階にいた。その頃軍令部第三部は十数人で、予備士官の西中尉(慶大出身・後期連載予定の「夜光虫事件」の主人公)はまだいなかった。吉川という囑託の人がいた。真珠湾の丘の上に住み、艦船の情報をつかんで通報していた人で、外務省の書記官の名目でハワイ大使館にいたが、開戦と同時に大使館員交換船で実松氏

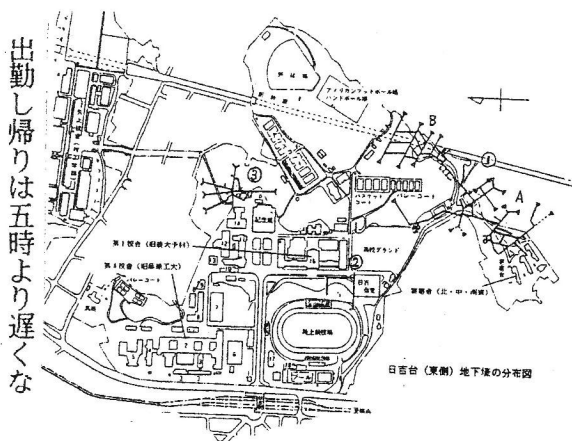
と共に日本に帰って来た。

昭和一九年二月に軍令部第三部は日吉の現高校校舎に入ったが、寒い時期だったので床に板を張った。

軍令部第三部が日吉に最初に来たが、その後、海軍のいろいろな部署がやって来た。

海軍施設部隊が地下壕を掘り始めたのはノルマンディの上陸後(一九年六月頃)である。フィリピンに出張を命ぜられた(後述)のでよく覚えてる。

第三部は二〇年の始め頃地下壕IのBに入り、終戦の日までそこでずっと仕事をしていた。地下壕の中は湿気が多く、ポタポタと水滴が落ちて来るのを避けて机をおいた。時々机の上に毛布を敷いて泊り込んだこともある。軍令部は官庁だから九時から始まり五時に終るが、大抵九時前に



出勤し帰りは五時より遅くなった。

「愛宕」に乗っていた時の食事はよかった。碇泊中は昼は洋食でスープ・魚・肉・コーヒーが出た。艦長・大尉以上は士官室で、中尉以下の士官は第一士官室(ガントリーと言った)で、特務士官(下からたき上げた士官)は第二士官室で食べた。特務士官は洋食よりも和食を好んだ。海軍省での食事もよかった。

昼はカツレツ・コッペパン・コーヒーが出た。海軍省士官室で食べた。

日吉に移ってからは、食事が少し悪くなったが、二〇年に入ってからは更にひどくなった。昼食に豆カスのスープなどが出て、よく身体をこわした。サイパンにいた時は二〇貫あった体重が、一四貫に減ってしまった。帰りが遅くなるど夜食におにぎりがでた。パンのことも時々あった。

昭和一九年四月二四日の空襲で大森の家が焼け、近くの親戚の家から日吉まで通うことになった。昭和二〇年四月二九日朝、重要書類を持って日吉に向った。目蒲線が爆撃で不通のため省線で横浜にでたが、空襲警報で東横線は不通、しかたなく横浜線で菊名に行こうと東神奈川に来たところで、横浜線もストップし

た。京浜急行のガード下に避難したが、軍服を見て人々が行くと人々が避難してきた。公園のある運河階級が一番上なので陸海軍の兵隊だけ集めて各倉庫に配置した。倉庫が燃え出し熱くて

仕方がないので運河に入ると、皆真似をした。倉庫が全部焼けて自然鎮火したので、河から上がり鶴見方面に歩いた。焼けた人々がゴロゴロしていた。靴を履いている人は、年寄り・子供をおぶって歩いた。

水道管が出ていれば短剣で切って水を飲んだ。軍のトラックが来たので大森海岸まで便乗した。

重要書類を入れたカバンは放棄できなかったが、火傷を負った。この空襲に会ってから日吉に民間アパート「海軍千早荘」を借りて泊まることになった。日吉駅の陸橋から六七分の

所だった。

実松氏は「米国は嘘を言わない。艦船部隊がどれだけの兵力を持つているか正しく掴むことが第一だ。君にそれをやって貰いたい」と命令された。

米国からの情報が中立国からも入らなくなると、日本の各所にいた海軍の特務班が外国の短波を傍受し、日吉に送ってきた。朝出勤すると机上に英語の情報が五、六cm以上の厚さで積まれていた。重要なものは分類し、実松氏の所に持参、日本語に訳した。

一九年六月海軍省軍務局長に「マニラ第三南遣隊の司令長官か参謀長に直接渡すように」と命令されて、極秘文書を持ってマニラに飛んだ。実松氏はこの文書のことを知っていたようで、「ダバオにいたら、捕虜にしているB17

の搭乗員から情報を取ってこい」と言われた。特務班の中尉と佐々木囑託（米国にいた二世）が同行した。

破竹会で同期だったマニラの副官・檜垣徳太郎（後に参議院議員）に連絡し、頼みこみ、直接参謀長に文書を渡すことができた。

文書を読み出すと参謀長の顔色が変わってきた。「便を仕立てるから飛行機でダバオの司令部に行ってもらいたい。書類を書くから白田司令官に手渡して欲しい」と言われ、二日後にダバオに行くと、車が迎えにきていた。知っている主計長がいたので、ここでも無事に司令官に書類を渡すことができた。書類はダバオでB17を撃墜し、捕虜にした一人を軍医少佐が試し切りにしたというものであった。事の次第は軍法会議にかけられ

たが、後はどのようなになったか不明である。

B17の一番上の階級の捕虜がダバオの病院に入院していたので、尋問し、情報の空白部分を埋める大きな成果を得た。帰国後、実松氏に報告した。すでにこの頃、上層部のまともな軍人であれば、負けるのは必至と思っていた。

戦争末期、お寺で予備士官に情報の指導をした。彼らは各部に情報部員として配属されていった。最後に入った予備士官の五九名は一カ月教育の後、配属され「むらくも隊」と呼ばれた。竹内第五課長（対米情報担当）から「いざとなったら諸君も散らなければいかな」と言われ、その時は「むらさめ隊」と呼び合おうと言っていた。（生協ニュース教職員版第四二号より抜粋転載）

松軒車争△△報社出口第二回

五月一〇日一八時半

日吉地区センター

議事

▼平和のための戦争展について

\*五月二〇日四時より川崎市平和館下見、六時より同館にて実行委員会。最終打合せとなるので多数出席をお願いします。

松軒車争△△報社出口第二回

七月一八日二二時

ブルーベア

報告

一、三月一六日筑波大付属駒場中学の先生と生徒による見学会七名参加

二、四月八日JR東労組山手電車区による見学会八名参加

三、同一五日壕保存の会総会三〇名参加

四、同二七日平和のための戦争展実行委員会開催

五、五月一〇日幹事会開催

六、同一九日JR東労組神奈川車掌区による見学会七名参加

加

七、同二〇日平和のための戦争展実行委員会開催

八、同二七日平和のための戦争展プレイベント・地下壕見学会三五名参加

九、同二八日郷土教育全国協議会下丸子サークルによる見学会一三名参加

一〇、六月一日川崎市職員労組による見学会二七名参加

一一、同三日平和のための戦争展展示物搬入、準備。

一二、同四日平和のための戦争展展示(渡辺先生関係のイベントがあった)

一三、同六日一一日平和のための戦争展展示

一四、同二〇日一一日平和のための戦争展の講演会、朗読、シンポジウムなど開催

一五、同二三日朝日カルチャ

の講座「戦争を体験する」による見学会一八名参加

一六、同二四日慶応生協学生

委員会による見学会二二名参加

一七、同二六日保存の会運営委員会開催

一八、七月九日川崎市ふれあい館「成人学級」による見学会七名参加

一九、同一四日JR東労組神奈川電車区・車掌区による見学会一五名参加

二〇、同一五日JR東労組鶴見支部による見学会一九名参加

議事

▼「第三回横浜・川崎平和のための戦争展95」の御報告とお礼について

\*2ページ参照

▼「95平和のための戦争展かながわ」について

「95平和のための戦争展かながわ」

「95平和のための戦争展かながわ」

日時：1995年8月11日(金)13時～21時  
12日(土)10時～21時  
13日(日)10時～19時

場所：鎌倉芸術館ギャラリー



大船駅下車(JR東海道、横須賀、根岸、湘南モノレール)  
主催：同展実行委員会 委員長：弓削 達(フェリス女学院大学長)  
展示内容：戦争と教育、思想・宗教の統制、私の街から戦争が見える(日吉台地下壕ほか)、戦時下の市民生活、船と戦争、日本の侵略、広島・長崎の被曝、安保と基地など  
多数の方々のご来場をお待ちしています。

\*保存の会として参加する。  
お手伝い頂ける方ご連絡ください。